

専門学校ESPエンタテインメント大阪

| 授業科目名 | 発声・滑舌・アクセント基礎 I | | 授業形態 / 必選 | 実習 | 必修 |
|--|---|-------|-------------|-------|-------|
| | | | 年次 | 1年次 | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 2単位 |
| 科目設置学科コース | ■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 | | | 該当 ■ | 非該当 □ |
| 担当講師 実務経歴 | FMラジオ「おはラジ!」、「ビジネスウォッチングイン北大阪」の出演、TVでは「デイリーアドバンスコープ」「ぐるぐるコロンプス」「いかなあGO!」に出演。その他CMナレーションや講演会などの経験を活かした実習を行う。 | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| <p>・声の出る仕組みや、「アクセント辞典」を教材として使用し日本語全国共通語について理解し、自分の声を知り人に伝える声の作り方、話し方を理解する。</p> <p>話し手として聞き手に判りやすく伝えるために必要な心技体を学び、人前で声を発する楽しさ、自分の言葉が聞き手に伝わる喜びに触れることを目的とします。</p> | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <p>・発声練習の基本姿勢、腹式呼吸、腹式発声、共通語アクセント、五十音の発声の仕方を学ぶ。</p> <p>・鼻濁音、無声化の技術の習得またその練習方法。</p> <p>・原稿の文章を明瞭に音声にする読み方の習得</p> | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|-----------------|--|
| 【前期】 1～4回目 | 【授業解説】 ストップウォッチの操作 / アクセント辞典の使い方と必要性 / 質問形式での自己紹介による声、しゃべり方 / 方言のチェック |
| 【前期】 5～8回目 | 【腹式呼吸】 呼吸の仕組み、声の出るメカニズムを学ぶ / 腹式呼吸の基礎 お腹の動き / 外郎売りの解説と実践 / イベントMCの影アナの練習 |
| 【前期】 9～12回目 | 【響き】 基本姿勢からの「あ」のロングトーンから「ん」のハミングを行い声の響きを体感 / ストップウォッチを使用した時間の感覚を覚える / アクセントで意味が変わることの調べと発声 / 緊張のメカニズムと対策 / 鼻濁音の理解と実践 |
| 【前期】 13～16回目 | 【声と感情】 ストレッチ運動 / 一つの台詞のみで喜怒哀楽の感情を学ぶ / 「あ・い・う・え・お」の口の開き方、表情筋、舌、響かせる箇所を学ぶ / 短い文章の明確な音読 / 無声音の理解と実践 |
| 【前期】 17～19回目 | ■前期試験:前期総復習 |
| 【後期】 20～23回目 | 【母音の完成】 母音の口形、舌の位置、発声を正しく身につける / 外郎売の暗記1.2 / 前期のおさらいをする |
| 【後期】 24～27回目 | 【子音を学ぶ】 ①カ・サ・タ行の学習 腹式呼吸の実践を高める1～3 ②固有名詞、数字の発音を学ぶ。 |
| 【後期】 28～31回目 | 【子音を学ぶ2】 ①ナ・ハ・マ行の学習 腹式呼吸の実践を高める1～3 ②雑音を無くし、クリアな発声を学ぶ。 |
| 【後期】 32～35回目 | 【子音を学ぶ3】 ①ヤ・ラ・ワ行の学習 腹式呼吸の実践を高める1～3 ②鼻濁音、無声化を完成させる。 |
| 【後期】 36～37回目 | ■後期試験:～後期総復習 |
| 評価方法 | 学期末に実施する試験により「平常点 / 基礎課題 / 実技 / 資料作成」の到達度を評価する。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格) |
| 学生へのメッセージ | 声の仕事に必要な伝わる声の出し方、正しく話すための滑舌、日本語の正しいアクセントを2年間で学んでいきます。またアクセント辞典の使い方の理解を深め、どの現場に行っても対応できるようになりましょう |
| 使用教科書 | アクセント辞典(入学時配布)・ストップウォッチ |

専門学校ESPエンタテインメント大阪

| | | | | | |
|--|---|-------|-------------|-------|------|
| 授業科目名 | MC・リポーター実習 I | | 授業形態 / 必選 | 実習 | 必修 |
| | | | 年次 | 1 年次 | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 2 単位 |
| 科目設置学科コース | ■声優芸能科 声優アーティストコース/タレントアクターコース | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □ | | | | |
| 担当講師 実務経歴 | キャラクターショーのMC、式典、市政イベントやファッションショーなどで活躍。フライダルMCにおいては1000組以上のMCを務める。実務経験15年。 | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| 基本の発声練習を繰り返し行い、様々なイベント台本に則った進行、トーク技術の取得 MC、リポーターとしての進行技術、フリートーク力を身につける | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| 人前に立ち、井戸端トークや覚えたコメントの発表のようなお喋りではなく、ゲストに話しかけて伝えていくトークを目指す。 そして、MCとしてしっかり進行できるようになる。 また、リポーターとして視聴者(リスナー)に正確な情報、プラス五感を言葉で表現したり現場の様子を伝えることが出来る。 | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|-----------------|--|
| 【前期】 1～4回目 | MCとリポーターの仕事を知る / 発声課題で口のあけ方、ブレスを学ぶ1.2 / 台本のアクセントチェック方法を学ぶ |
| 【前期】 5～8回目 | 歌唱コンテストMC / 出場者の呼び出し、曲紹介の仕方を学ぶ / オープニングガナリ、審査員紹介までの流れを学ぶ1.2 |
| 【前期】 9～12回目 | フリートーク / 曲に対するフリートークの展開 / インタビューの仕方を掴む / 結果発表、締めトークを学ぶ |
| 【前期】 13～16回目 | リポーター / リポーターの基礎知識の習得 / 観光地の資料原稿作成 / トーク展開を身につける |
| 【前期】 17～19回目 | ■前期試験: 前期総復習 |
| 【後期】 20～23回目 | フライダル実習1 / 結婚式、披露宴の知識の習得1.2 / 主賓挨拶から祝宴の進行までを学ぶ |
| 【後期】 24～27回目 | フライダル実習2 / 友人のスピーチ紹介 / 場に合った雰囲気作りの進行 / 余興、送賓の進行を学ぶ |
| 【後期】 28～31回目 | 外部イベントMC / 外部企業MCに向けた情報のまとめと準備 / 台本作成を行う / 転換中のフリートーク、エンディング進行を学ぶ |
| 【後期】 32～35回目 | リポーター実習 / 食レポートの要点 / インタビューの練習 / ニュース原稿の読み上げ |
| 【後期】 36～37回目 | ■後期試験: 後期総復習 |
| 評価方法 | 学期末に実施する試験により「平常点 / 基礎課題 / 実技 / 資料作成」の到達度を評価する。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格) |
| 学生へのメッセージ | MCもリポーターもイベント進行の要となり、イベントそのものの雰囲気を作る重要な役割を担っています。 様々なシチュエーションに対応できるようになることで仕事の幅も広がり、可能性も広がります。 |
| 使用教科書 | アクセント辞典/ストップウォッチ |

専門学校ESPエンタテインメント大阪

| | | | | | |
|---|--|-------|--------------|-------|------|
| 授業科目名 | 演技基礎実習 I | | 授業形態 / 必選 | 実習 | 必修 |
| | | | 年次 | 1 年次 | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 74回(148単位時間) | 年間単位数 | 4 単位 |
| 科目設置学科コース | ■声優芸能科 声優アーティストコース/タレントアクターコース/声優&スタッフコース | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/> | | | | |
| 担当講師 実務経歴 | 株式会社TENPACHIで劇団天八の座長として多くの舞台出演、演出を手がける。また若手劇団員の育成も行っている。実務経験12年 | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| 舞台を中心に身体表現の基礎である「演技術」を向上していく。 演技における身体育成から始まり、舞台での本番を重ね、演技者としての自覚をもつようになる。 | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| ・演技をする際に何を考えればいいのかを明確に認識できるようになる ・「4W」「目的」「障害」「葛藤」「行動」の5つの要素を活用できるようになる | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|-----------------|--|
| 【前期】 1～8回目 | 演技準備 / コーディネーショントレーニングに基づいた動きと発声 / 有酸素運動のコンビネーション / 身体を温めることでの声の変化を知る |
| 【前期】 9～16回目 | 演技準備2 / シアターゲームを通じた表現技術の取得と理解1.2 / キャラクターを見分け、演技に活かしていく |
| 【前期】 17～24回目 | 台本のチェック / 演技台本使った作品の読み書きを得る / 台本の読みやアクセント、間、プレスなど台本に記入をしていく1.2 |
| 【前期】 25～32回目 | 【演劇】読み合わせ / 立ち稽古を通し / 上演会を行う / 本番までのプロセスを通して演技の楽しさを知る |
| 【前期】 33～38回目 | ■前期試験:前期総復習 |
| 【後期】 39～46回目 | 演技基礎 / サブテキストを使用した表現方法の理解を深める / 身体を動かした演技の表現方法を学ぶ1.2 |
| 【後期】 47～54回目 | 演技基礎2 / 身体を動かしながら演技をすることで感情の変化がどのように変わるか / 行動をすることで距離感が生まれそ その中の演技の違いを知る1.2 |
| 【後期】 55～62回目 | 演技基礎3 / サブテキストを使用し、身体を動かしながら演技をする表現方法学ぶ / 喜怒哀楽時の身体の動きをしり、声の表現に変えていく1～3 |
| 【後期】 63～70回目 | 演技基礎4 / 台詞を細かく分け、違う表現方法を学び、台詞へのアプローチ方法を学ぶ1.2 / 喜怒哀楽時の声の違いを知り、演技につなげる。 |
| 【後期】 71～74回目 | ■後期試験:～後期総復習 |
| 評価方法 | 学期末に実施する試験により「平常点 / 基礎課題 / 実技 / 資料作成」の到達度を評価する。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格) |
| 学生へのメッセージ | 演技は様々な捕らえ方が出来る上に自由度が高いですがその分自身の持っている表現力が問われます。 この授業では表現力を高めることと演技の基礎をしっかりと学んでいきます。 |
| 使用教科書 | 舞台演技台本(内容は年度により変更) |

専門学校ESPエンタテインメント大阪

| 授業科目名 | 歌唱基礎実技 | | 授業形態 / 必選 | 実習 | 必修 |
|---|---|-------|-------------|-------|-----|
| | | | 年次 | 1 年次 | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 2単位 |
| 科目設置学科コース | ■声優芸能科 声優アーティストコース/タレントアクターコース | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □ | | | | |
| 担当講師 実務経歴 | ・2007年 阪神若手音楽祭グランプリ受賞。2010年 河島英五音楽賞にて最優秀賞獲得。 ・2008年 シングル全国発売。ハドソン系着うたサイト インディーズランキング2位獲得。 ・2009年 GOING KOBE 09 出演。2010年 サマーソニック 2010 in東京 出演。 ・2012年 ユニット活動休止後、ソロ活動開始。 | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| 邦楽を中心に年間7曲の課題を通して歌唱の基本を学び、技術を身に付けます。それらを定期的に発表することで技術の習得のチェックを行います。また曲ごとに特徴を掴むため分析を行い、それぞれの曲に合わせた表現の仕方を学び、分析力、考察力の方法を知っていきます。 | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| ・歌唱法を学び、どんな歌であっても歌っていけるようになる。 ・現場で即戦力となる人材になる。 ・曲を分析し理解した上で表現するための技術を学ぶ 曲をとらえる基本的な力を身に付ける ・リズムをとらえる力を身に付ける | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|-----------------|--|
| 【前期】 1～4回目 | 【ガイダンス】機材説明 課題曲進行説明/《曲をとらえる基本的な力》現状のレベルを感じてもらふ楽曲 8beat 1コーラス 曲の構造、リズムの把握/1コーラス 曲の完成度 仕上げ |
| 【前期】 5～8回目 | 【伴奏を聴く力】リズムの基本である、ドラムビート、ベースラインを感じる ハネの16beat/1コーラス 曲の構造、リズムの把握 2コーラス 曲の細かいリズム、表現を練習/フルコース 3週通して学んだ内容仕上げ |
| 【前期】 9～12回目 | 【ミニテスト】1曲目と2曲目の歌唱 /《洋楽に慣れる①》シンプルに言葉を大切に パラード タンギング 70年代 1コーラス 曲の構造、リズムの把握/2コーラス 曲の細かいリズム、表現を練習 |
| 【前期】 13～16回目 | 【フルコース】3週通して学んだ内容仕上げ/《洋楽に慣れる②》言葉の節回し、英語のリズム感 ミディアム シンコペーション 70年代 1コーラス 曲の構造、リズムの把握 |
| 【前期】 17～19回目 | ■前期試験:前期総復習 |
| 【後期】 20～23回目 | 【2コーラス】曲の細かいリズム、表現を練習/フルコース 3週通して学んだ内容仕上げ ミニテスト 3曲目と4曲目の歌唱 /5曲目《ピッチの確立》メロディが特徴的な楽曲。息の使い方、声の出し方、安定したピッチ感 |
| 【後期】 24～27回目 | 【1コーラス】曲の構造、リズムの把握/ 2コーラス 曲の細かいリズム、表現を練習 フルコース 3週通して学んだ内容仕上げ/6曲目《言葉のリズム》日本語のアップテンポのR&B。言葉のスピード感をメロディとリズムにのせる |
| 【後期】 28～31回目 | 【ミニテスト】1コーラス 曲の構造、リズムの把握/ 2コーラス 曲の細かいリズム、表現を練習 フルコース 3週通して学んだ内容仕上げ/ミニテスト 3曲目と4曲目の歌唱 |
| 【後期】 32～35回目 | 【総まとめ】現行R&Bソウル。1年間学んだことの総まとめ /1コーラス 曲の構造、リズムの把握 2コーラス 曲の細かいリズム、表現を練習/フルコース 3週通して学んだ内容仕上げ |
| 【後期】 36～37回目 | ■後期試験:後期総復習 |
| 評価方法 | 学期末に実施する試験により「平常点 /基礎課題 /実技 /資料作成」の到達度を評価する。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格) |
| 学生へのメッセージ | 1年生の授業では、1970年代から現代の楽曲において、比較的取り組みやすいポップな曲、洋楽 ブラックミュージックから進化をとげたJ・R&B(ジャパニーズR&B)など。様々なジャンルの楽曲に取り組みます。また英語のリズムに少しでも慣れていくために、洋楽の基本を学びます。ボイストレーニングと運動させ、歌うための基礎のリズム、音程(声区)、表現を身につけていきます。またパフォーマンスヴォーカルとして、ステージで歌うことを想定した指導をしています。 |
| 使用教科書 | |

専門学校ESPエンタテインメント大阪

| 授業科目名 | ダンス基礎実技 | | 授業形態 / 必選 | 実習 | 必修 |
|--|---|-------|-------------|-------|-----|
| | | | 年次 | 1年次 | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 2単位 |
| 科目設置学科コース | ■声優芸能科 声優アーティストコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □ | | | | |
| 担当講師 実務経歴 | EXILE、DOBERMAN INC、MINMI、AI等のバックダンサー、オープニングアクトダンサーとして出演経歴があり、ダンスチーム「MO★JO」としてもコンテストで優勝経歴がある。ダンススタジオのインストラクターも兼任。実務経験を活かした実習を行っている。実務経歴10年 | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 音を聴く事により、リズムに合わせて身体を動かすことを学ぶ 身体を動かすことで柔軟性を養い、怪我をしにくい身体作りを目指す。 ダンスの理解を深める | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 基本的なステップが踊れるようになる ダンスの用語を知る事が出来る ダウンとアップの違いを理解してリズムを体現できるようになる | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|-----------------|---|
| 【前期】 1～4回目 | ストレッチで自分自身の柔軟性を知る事が出来る /カウントの取り方を知る事が出来る ステップ1(サイドステップ、クロスステップ)を学ぶ/ダウンとアップの違いを学ぶ |
| 【前期】 5～8回目 | ステップ1をダウンとアップで踏むことが出来る /ステップ2(ボックスステップ)を学ぶ ステップ1, 2を組み合わせて動けるようになる /ステップ1, 2で移動できるようになる |
| 【前期】 9～12回目 | 振付、構成をつなげて踊りきることが出来る/ステップ3(ポップコーン)を学ぶことが出来る アイソレーションの稼動範囲を広げることが出来る/足の動きだけでは無く手の動かし方、体重のかけ方で見え方や感覚が変わることを学ぶ。 |
| 【前期】 13～16回目 | 意識して動かせる部分をふやすことが出来る/課題に対して練習の仕方を考えることが出来る 課題内容を理解して自分らしく踊ることが出来る/動きに自分の意識を組み込むことが出来る |
| 【前期】 17～19回目 | ■前期試験:前期総復習 |
| 【後期】 20～23回目 | 前期で学んだことをおさらいしたうえで全体のバランスの完成度を上げる/アップダウンのリズムを取りながら遅めのテンポでアイソレーションを動かすことを学ぶ/リズムを一定に刻むことが出来る/早めのテンポでリズムとアイソレーションの組み合わせを体現できる筋力と感覚を向上させる |
| 【後期】 24～27回目 | ステップを学び音に合わせて踊れるようになる/簡単なフロアワークを覚え、ゆっくり、遅めのテンポの曲に合わせて動けるようになるステップや振付の立ち姿勢からフロアムーブに入る流れのコツをつかめるようになる/早めのテンポの曲で踊れるようになる |
| 【後期】 28～31回目 | ステップルーティンや振付などをベースに流れを止めずリズムを取りながら移動できるようになる/ステップや振付を通して、不安定な体制はないか、どう軸を意識すれば安定するを学ぶ/空間を大きく使い踊ることが出来る |
| 【後期】 32～35回目 | 踊りの強弱のつけ方を学び、理解する/力強い動きと、滑らかな動きに必要な筋力を付けることが出来る /振付やルーティンを曲の高揚に合わせて踊ることが出来る/全体的なパフォーマンスを自己分析して完成度を高める工夫の仕方を学ぶ |
| 【後期】 36～37回目 | ■後期試験:後期総復習 |
| 評価方法 | 学期末に実施する試験により「平常点 /基礎課題 /実技 /資料作成」の到達度を評価する。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格) |
| 学生へのメッセージ | ダンス未経験者、経験者ともに基礎体力の強化と基本的なリズム感を身に付けます。ダンスを学ぶ為の流れやダンスの用語、振付などダンスを通して、表現力、体力、リズム感を学び、表現者としてのスキルを学んでいきましょう。 |
| 使用教科書 | |

専門学校ESPエンタテインメント大阪

| 授業科目名 | パフォーマンス論 | | 授業形態 / 必選 | 講義 | 必修 |
|---|--|-------|-------------|-------|-----|
| | | | 年次 | 1年次 | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 4単位 |
| 科目設置学科コース | ■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □ | | | | |
| 担当講師 実務経歴 | 俳優養成所にて発声の特別講師、日本放映プロダクションで発声・演技指導・身体トレーニングを併任。実務経験22年 | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| 表現を行う基礎となる「身体」、自らの意思で動かすことによって、凡庸性かつ応用性を兼ね備えた「表現者としての基礎」を作り上げる。 | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・身体の基礎を理解し、あらゆるジャンルにおいて自由な発想を思いつくようになる。 ・反復作業によって習得していくものが「技術」だと理解し、ほかの様々なジャンルでの表現に対応できる。 ・表現においてたった1つの正解はなく、自由に発想できるようになる。 ・業界内における用語などを理解し、各種イベントで作業をする際に使用出来るようになる。 | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|-----------------|--|
| 【前期】 1～4回目 | イントロダクション / コーディネーショントレーニング / 有酸素運動のコンビネーション / シアターゲーム(以下TG)を用いたアイスブレイ |
| 【前期】 5～8回目 | 身体の開放1～4 CTと有酸素運動のコンビネーションの歴史と効果 / TG各種過去に経験のない動きを反復し習得させる / 身体の開放1～4のまとめ / 習得が出来ているかの確認 |
| 【前期】 9～12回目 | 身体と声1～4 CTと有酸素運動のコンビネーションを通した声の変化1.2 / 人体図を使った声の出方を知る / 身体の変化によって声がどう変わるのかを実践 |
| 【前期】 13～16回目 | イベント準備1～4 イベントに必要な資料を知る / 資料の作成方法を学ぶ / 提出資料の作成のまとめ / 他学科との共同授業の為の準備 |
| 【前期】 17～19回目 | ■前期試験:前期総復習 |
| 【後期】 20～23回目 | 取り巻く環境(コミュニケーション論1～4) コミュニケーションを技術と理解し、ロープレを反復しながらイベントでの実践を図る |
| 【後期】 24～27回目 | 取り巻く環境(業界講座1～4) 目指す業界の成り立ちや現状を理解し、目標をたてる。 |
| 【後期】 28～31回目 | 身体と環境1～4 個々の状況と環境を理解し、把握した上で表現に変化を加える技術を身につける。 |
| 【後期】 32～35回目 | イベント準備1～4 イベント出演までの準備と台本の作成 |
| 【後期】 36～37回目 | ■後期試験:後期総復習 |
| 評価方法 | 学期末に実施する試験により「平常点 / 基礎課題 / 演技 / 資料作成」の到達度を評価する。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格) |
| 学生へのメッセージ | パフォーマンスと一言で言っても様々なとらえ方があり、どの方向性からもアプローチが出来るように業界のことを知り、コミュニケーション力を身に付け、表現者として必要な表現方法、声の出し方、パフォーマンスの方法を知っていきましょう。 |
| 使用教科書 | |

専門学校ESPエンタテインメント大阪

| 授業科目名 | アフレコ基礎実習 | | 授業形態 / 必選 | 演習 | 選択(必) |
|--|--|-------|--------------|-------|-------|
| | | | 年次 | 1年次 | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 74回(148単位時間) | 年間単位数 | 9単位 |
| 科目設置学科コース | ■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/> | | | | |
| 担当講師 実務経歴 | 「オー！マイキー」(ガム江・セクシー女役)、「歴史秘話ヒストリア」「踊るカマドウマの夜」他、CMや番組のナレーションを担当。 ラジオドラマ「スペースドリフターズ」「ドラマの風」など多くの経験を持つ。実務経験10年 | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| 声や身体を使って表現することに必要な土台作りを学ぶとともに、自身とは違う人物やキャラクターの感情、状態、背景を理解し、表現することを目的とする。 | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| ・様々な役を演じ分けることが出来るようになる。 ・基礎(発声・滑舌・アクセント)が理解できる。 ・マイクワークが出来るようになる。 | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|-----------------|---|
| 【前期】 1～8回目 | 自己紹介・授業に向けての説明 /レベルチェック/スタジオ収録についての説明を知る/前期アフレコ収録1(配役決め、読み合わせ) |
| 【前期】 9～16回目 | 前期アフレコ収録練習2(読み合わせ)/アフレコ収録3(演技、タイミング)/1～3の要点のチェック/発声練習(初級) |
| 【前期】 17～24回目 | 滑舌練習(初級)/アクセント練習(規則と型を知る)/発声(中級)1～2 ロや舌の位置、動きを知る |
| 【前期】 25～32回目 | 基礎練習まとめ1～2(発声、滑舌、アクセント)/腹式呼吸を身につける/アクセントの基礎と型を使い分ける |
| 【前期】 33～38回目 | ■前期試験:前期総復習 |
| 【後期】 39～46回目 | 台本を使って感情表現を学ぶ/4W・目的・障害・葛藤・行動を活用する/読みあわせと立ち稽古/感情表現 喜怒哀楽を表現する |
| 【後期】 47～54回目 | 後期アフレコ収録用練習1 後期アフレコ収録練習/演技練習/アフレコ時のマイクワーク/細かく演技の質を上げていく |
| 【後期】 55～62回目 | 発声練習(上級) /滑舌練習(上級)/アクセント(上級)1～2 アクセント辞書を使った標準語のアクセントを学ぶ |
| 【後期】 63～70回目 | アフレコ練習1～4 アニメ映像とアフレコ台本を使用し教室内でアフレコを行なう。 |
| 【後期】 71～74回目 | ■後期試験:後期総復習 |
| 評価方法 | 学期末に実施する試験により「平常点 /基礎課題 /実技 /資料作成」の到達度を評価する。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格) |
| 学生へのメッセージ | 声だけで演じることは表情や動きが見えない分、演劇等とは違う表現が求められます。 またマイクに向かって話すための技術、ディレクターとのやり取りやアフレコの際に使用するヘッドホンの使用方法など声優のメインのお仕事となるアフレコを発声の基礎と共に学んでいきます。 |
| 使用教科書 | |

専門学校ESPエンタテインメント大阪

| 授業科目名 | ミュージカル実習 | | 授業形態 / 必選 | 演習 | 選択(必) |
|--|---|-------|--------------|-------|-------|
| | | | 年次 | 1年次 | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 74回(148単位時間) | 年間単位数 | 9単位 |
| 科目設置学科コース | ■声優芸能科 タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □ | | | | |
| 担当講師 実務経歴 | New OSK日本歌劇団を経てフリーに転進後、多くの舞台出演経験がある。また舞台の脚本、演出も手がけており経験を活かした演習を行っている。実務経験11年。 | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| 授業概要: 芝居、歌、ダンスを融合し舞台を主とした総合芸術を学ぶ。各授業で学んでいる3つのジャンルを取り入れ音楽を使ったミュージカル作品を演じるにより創業芸術を理解する。 | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・リズム感と舞台に必要な身体能力を身につける ・舞台表現を身につける ・3つのジャンルを比べながら平均的に学ぶことが出来る。 | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|-----------------|---|
| 【前期】 1～8回目 | 自己紹介とレベルチェック 自己紹介カードの作成と発表/エクササイズを行い身体能力、柔軟性をチェックする /レベルチェック課題の台本を用いてレベルを確認する1～2 |
| 【前期】 9～16回目 | エクササイズと課題「Me&MyGirl」 エクササイズを行う /クロスウォークで姿勢や歩き方の改善/発声練習 /課題の台本読みから立ち稽古を通し、完成させる |
| 【前期】 17～24回目 | アイソレーションと課題「Mamma Mia!」台本読み /アイソレーションを行う /リズムウォークでリズム感を養う/課題の台本読みから立ち稽古を通し完成させる |
| 【前期】 25～32回目 | 課題「A Corus Line」本読み・振付/前期試験課題の知識を得る /作中の曲で振付を覚える/課題の振付を覚える |
| 【前期】 33～38回目 | ■前期試験:前期総復習 |
| 【後期】 39～46回目 | エクササイズと『Beauty and the Beast』本読み/身体能力、体の柔軟性を養う/クロスウォークで、姿勢、歩き方を改善、リズム感とダンスの基礎を身に付ける/課題台本を読み、作品についての知識を学ぶ |
| 【後期】 47～54回目 | 課題『Aladdin』 台本読みと演劇公演の振付/課題『Aladdin』の本読みから、作品についての知識を学ぶ/演劇公演『遠い約束』エンディングの前後半部分の振りを付ける1～2 |
| 【後期】 55～62回目 | 『Aladdin』 立ち稽古と演劇公演の振付の続き/課題『Aladdin』の各自の役柄を決め、立ち稽古を行う/演劇公演『遠い約束』の発表1～2 |
| 【後期】 63～70回目 | 『Aladdin』 歌稽古/M1『アラビアン・ナイト』・M2『壁の向こうへ』・M3『自慢の息子』 M4『行こうよどこまでも』・M5『フレンドライクミー』・M6『ホールニューワールド』 の1コーラスを歌詞を見ずに歌いきる1～4 |
| 【後期】 71～74回目 | ■後期試験:後期総復習 |
| 評価方法 | 学期末に実施する試験により「平常点 /基礎課題 /実技 /資料作成」の到達度を評価する。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格) |
| 学生へのメッセージ | ミュージカルは歌やダンス、演技の3つの総合力が必要です。一つ一つ学びながら、ミュージカルの楽しさを知り、3つの技術の取得を目指しましょう。ミュージカルは歌もダンスも演技も独特の表現方法となります。総合的に学ぶことでミュージカルの奥深さを知りましょう。 |
| 使用教科書 | |

専門学校ESPエンタテインメント大阪

| 授業科目名 | ナレーション実習 I | | 授業形態 / 必選 | 実習 | 選択(必) |
|---|--|-------|-------------|-------|-------|
| | | | 年次 | 1年次 | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 2単位 |
| 科目設置学科コース | ■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/> | | | | |
| 担当講師 実務経歴 | 「ジモスポ〜京都〜」(J:COMチャンネル)、「OSAKA1番らばー」「わざわざ言うTV」(TVO)、「谷ロキヨコの旬なKANSAITレンド+」(eo光チャンネル)、「D-IMPACT」「BINBINソルト(釣りビジョン)」「EXILEスペシャル」「w-inds.SP」のナレーションを務める | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| ナレーションというものを感覚と理論で理解し、必要な技術と知識を身につける 文章内にある複雑な感情表現を「感情開放」することで各々独自の表現方法を目指す 比較的簡単な原稿からはじめ、徐々に難易度を上げていきながらも個々の技量に合わせた指導を行う 1つの原稿を2週にわたり使用し、予習と復習が出来る体制を作る | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| ・ナレーションとして原稿を読む際に必要なアプローチ方法を習得できる ・ナレーション表現に必要な知識や技術を理解することで自身の考え方に基づいたオリジナリティ溢れる表現が出来るようになる ・感情表現や言葉、アクセントを大事にすることで美しい日本語を理解できる | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|-----------------|--|
| 【前期】 1～4回目 | ナレーション基礎理論の説明 / ナレーション基礎理論 原稿Aを使用/ナレーションの決まりごと、注意点/原稿A ナレーションの基礎理論 / ナレーションの決まりごとや注意点の復習 |
| 【前期】 5～8回目 | 読む力の形成と実践 / ナレーション原稿Bの実践/原稿Bの復習/必要な基礎力(滑舌、発声、表現、速度、コントロール力) |
| 【前期】 9～12回目 | 原稿D「表現力」の理解/原稿D 復習/原稿E 文章の流れや意味、句読点や言葉のつながり方/原稿Eの復習 |
| 【前期】 13～16回目 | 悪癖(文頭、文末のおとのうねりやぶつ切り)をチェック/悪癖を原稿Fを使用復習することで修正/前期の復習1～2 |
| 【前期】 17～19回目 | ■前期試験:前期総復習 |
| 【後期】 20～23回目 | ナレーション基礎理論(緩急、強弱、間の概念) 原稿Gを使用/ナレーション基礎技術のおさらい/原稿の媒体や、文章の意図、主旨に沿った適切な感情表現 原稿Hを使用する/原稿Hの実践とおさらい |
| 【後期】 24～27回目 | ボイスサンプル収録の原稿選考/原稿2つを繰り返し読む/原稿を演出構成/感情表現を活かす演出の練習 |
| 【後期】 28～31回目 | 悪癖や注意点の修繕/原稿の最終確認/反省の確認/前回の課題を原稿Iを使用し修正 |
| 【後期】 32～35回目 | 悪癖の修正/前回の課題、反省点 原稿I/後期復習1～2 |
| 【後期】 36～37回目 | ■後期試験:後期総復習 |
| 評価方法 | 学期末に実施する試験により「平常点 / 基礎課題 / 実技 / 資料作成」の到達度を評価する。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格) |
| 学生へのメッセージ | ナレーターは言葉のプロです。アクセント、滑舌など発声の基礎はもちろん、主旨にあった表現力も必要になります。基礎を抑えながら個性も出すことで独特の雰囲気のあるナレーションが生まれます。自分の声に合ったナレーションが出来るようにしっかりと基礎を学んでいきましょう。 |
| 使用教科書 | |

専門学校ESPエンタテインメント大阪

| 授業科目名 | ラジオパーソナリティ実習Ⅰ | | 授業形態 / 必選 | 実習 | 選択(必) |
|--|--|-------|-------------|-------|-------|
| | | | 年次 | 1年次 | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 2単位 |
| 科目設置学科コース | ■声優芸能科 声優アーティストコース/タレントアクターコース | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/> | | | | |
| 担当講師 実務経歴 | テレビ番組では出会いのまち西宮(サンテレビ)、大阪マラソン(eo光テレビ)リポーターとして ラジオでは中央競馬実況中継(ラジオNIKKEI)、CMでも大阪国際女子マラソン(Na)、SD共済(Na)、紀州南高梅(Na)等々 多くの番組でナレーター、MC、ラジオパーソナリティを務める | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| フリートークが自然に出来るようになるために様々な情報を収集し、授業内に取り入れていく。 ラジオは言葉だけで表現するメディアなので、人に伝わる表現力を身につける事と、時間やテーマに臨機応変に対応出来るようになる。 | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| ・ラジオパーソナリティとしての仕事を知る ・ラジオに必要な知識、段取りを知る ・臨機応変に話せるようになる事。自分の個性を知る事。 | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|-----------------|--|
| 【前期】 1～4回目 | 自己紹介/インタビュー /グループワーク/フリートーク |
| 【前期】 5～8回目 | ラジオ原稿を使用し、感覚を掴む/同じトークネタでフリートーク/レポート/世の中の話題を記事にし、言葉で紹介 |
| 【前期】 9～12回目 | ラジオのオープニング/記事の読み方、CUEシート/収録実習1～2 |
| 【前期】 13～16回目 | 収録実習3～5/レポート 夏休みのレポート |
| 【前期】 17～19回目 | ■前期試験:前期総復習 |
| 【後期】 20～23回目 | ラジオ収録1～4 収録1回目 ラジオ収録原稿の担当者/原稿のチェック。プレス位置/アクセントなど弱点の確認 / ディレクターとの打合せ |
| 【後期】 24～27回目 | ラジオ収録5～8 ラジオ局にて収録/ 現場ハーサル / 実際に収録をする/ 収録したものを聞きなおす |
| 【後期】 28～31回目 | ラジオ収録9～12 収録2回目の準備 / ラジオ収録原稿の担当者/原稿のチェック、プレス位置/アクセントなど弱点の確認/ ディレクターとの打合せ |
| 【後期】 32～35回目 | ラジオ収録13～17 ラジオ局にて収録 / 現場リハーサル / 実際に収録をする / 収録したものを聞きなおす |
| 【後期】 36～37回目 | ■後期試験:後期総復習 |
| 評価方法 | 学期末に実施する試験により「平常点 /基礎課題 /実技 /資料作成」の到達度を評価する。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格) |
| 学生へのメッセージ | ラジオを普段聴かない人もいますが日本中で24時間ラジオはあらゆる地域で放送されています。また、災害時にも役立ちます。フリートークのスキルはいかに事柄に通じているかだけではなく、知らないことでも話を広げるトークスキルも求められます。また番組の構成が考えられることは戦力となりますので沢山経験を積んで下さい。 |
| 使用教科書 | |

専門学校ESPエンタテインメント大阪

| 授業科目名 | 歌唱応用実技 | | 授業形態 / 必選 | 実習 | 選択(必) |
|---|---|-------|-------------|-------|-------|
| | | | 年次 | 1年次 | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 2単位 |
| 科目設置学科コース | ■声優芸能科 声優アーティストコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/> | | | | |
| 担当講師 実務経歴 | ・2009年木村充揮を父に持つ木村俊章とロックバンド「BAHARANA」結成。 ・ジョニー吉長、内田勤太郎、寺岡呼人等大御所ミュージシャン・バンドと共演を重ねる。 ・2012年6月バンド活動休止後は、ソロアーティストとして活動中。 | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| オーディションやコンテスト、ライブなどで使用する曲を分析し研究することで自分の歌にする。 曲によって変わるアプローチ方法を学ぶ 歌を通して表現力を身につける | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| ・楽曲理解、分析(曲調、リズム、音程、フレージングなど) ・ヴォイストレーニングで習得した発声力でのアプローチ ・楽曲に対する自己分析の強化 ・表現力の向上 ・ステージ上にてより素晴らしいパフォーマンスを目指す | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|-----------------|---|
| 【前期】 1～4回目 | 選曲/準備の仕方・1コーラス歌唱/仕込み/基礎 2コーラス歌唱/基礎の確立 |
| 【前期】 5～8回目 | 苦手部分の反復練習/フルコーラス歌唱/歌い込み/総合的反復練習 |
| 【前期】 9～12回目 | 基礎の確立/ダイナミクスを付ける/2コーラス歌唱/フルコーラス歌唱 |
| 【前期】 13～16回目 | 歌い込み/総合的反復練習/ステージングの練習/フルコーラス歌唱 |
| 【前期】 17～19回目 | ■前期試験:前期総復習 |
| 【後期】 20～23回目 | 細かいピッチ、リズムの改善/10月のコンテストを目標とした練習/色づけ/オケのアレンジについて |
| 【後期】 24～27回目 | 暗譜、客観視/歌い込み(総合的反復練習と修正)/12月のコンテストへ向けて選曲/歌い込み/12月のコンテスト曲の準備、練習 |
| 【後期】 28～31回目 | 曲の仕込み、分析/12月のコンテストを目標とした練習/基礎の確立/細かいピッチ、リズムの改善 |
| 【後期】 32～35回目 | 色づけ・歌詞の解釈/暗譜、客観視/スタミナ、持続力の強化/歌い込み(総合的反復練習と修正。) |
| 【後期】 36～37回目 | ■後期試験:後期総復習 |
| 評価方法 | 学期末に実施する試験により「平常点/基礎課題/実技/資料作成」の到達度を評価する。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格) |
| 学生へのメッセージ | 選曲は先生に頼らず学生が自分の考えで決定します。皆さんが大好きな歌、上手く唄いたい楽曲を選曲し、学内発表会やコンテストなどで発表する曲もこの授業でチェック出来ます。自信を持って歌うには、細かな楽曲理解、分析が必要です。自身の歌を録音し、客観視しながら復習にも役立てましょう！ また、ヴォイストレーニングで学んだ発声力を利用し、自己選曲に自信を持って唄えるよう、成長していきましょう！！ |
| 使用教科書 | 学生が歌詞カードを提出 |

専門学校ESPエンタテインメント大阪

| 授業科目名 | ダンス応用実技 I | | 授業形態 / 必選 | 実習 | 選択(必) |
|--|---|-------|-------------|-------|-------|
| | | | 年次 | 1年次 | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 2単位 |
| 科目設置学科コース | ■声優芸能科 ダンスパフォーマンスコース/タレントアクターコース | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □ | | | | |
| 担当講師 実務経歴 | EXILE、DOBERMAN INC、MINMI、AI等のバックダンサー、オープニングアクトダンサーとして出演経歴があり、ダンスチーム「MO★JO」としてもコンテストで優勝経歴がある。ダンススタジオのインストラクターも兼任。実務経験を活かした実習を行っている。実務経歴10年 | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・FREE STYLEを通してダンスのジャンルへの理解 ・FREE STYLEの習得 ・リズム、ボディバランス、表現力の習得 | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なダンスが踊れるようになる。 ・振付に組み込むことが出来る。 ・身体の移動範囲を知り範囲拡大と強化が出来る | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|-----------------|--|
| 【前期】 1～4回目 | 自分の身体を知る / アイソレーションで身体の移動範囲を知る / リズムとステップ / 組合せ1 ①リズムとアイソレーション |
| 【前期】 5～8回目 | ボディバランスの意識 / ルーティンをつなげる / 組合せ2 ①胸と腰のアイソレーション / ステップの強化 |
| 【前期】 9～12回目 | リズムとアイソレーション / 音を刻む / リーディングをつなげる / ボディコントロール |
| 【前期】 13～16回目 | 視野を広げる ①様々な角度を意識して踊る / フリーに踊る / 強弱、緩急をつけて踊る / 方向を捉える |
| 【前期】 17～19回目 | ■前期試験:前期総復習 |
| 【後期】 20～23回目 | 前期の応用 筋力トレーニング / アイソレーションの復習 / 振付1 / 柔軟 |
| 【後期】 24～27回目 | リズム+アイソレーション1 / ステップ1 振付2 / リズム+アイソレーション2 / ステップ2 振付3 |
| 【後期】 28～31回目 | フロアワーク1 振付4 / ボディコントロール1 振付5 / 振付6～7 |
| 【後期】 32～35回目 | コミュニケーション1 振付8 / 総合パフォーマンス1 / 振付10 / 全体のパフォーマンスの復習 |
| 【後期】 36～37回目 | ■後期試験:後期総復習 |
| 評価方法 | 学期末に実施する試験により「平常点 / 基礎課題 / 実技 / 資料作成」の到達度を評価する。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格) |
| 学生へのメッセージ | ダンスのジャンルとしてはFREE STYLEは自由度が高く、一般的なダンスの基礎の部分を多く取り入れています。 振付をメインにリズムや身体能力、表現力を学び表現者としての土台を作っていきます。 最初は難しく感じることが多いですが繰り返し動くことで自分の動きとして取りこめるようになりますので焦らず楽しみながら学んでいきましょう。 |
| 使用教科書 | |

専門学校ESPエンタテインメント大阪

| 授業科目名 | ヴォイストレーニング I | | 授業形態 / 必選 | 実習 | 選択(必) | | |
|---|---|-------|-------------|-------|-------|-----|---|
| | | | 年次 | 1年次 | | | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 2単位 | | |
| 科目設置学科コース | ■声優芸能科 タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース | | | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 | | | 該当 | ■ | 非該当 | □ |
| 担当講師 実務経歴 | ・2003年に「twenty4-7」を結成し、2007年にavexからメジャーデビュー。 ・シングル・アルバム通算15枚をリリース。 ・2012年9年間の活動を経て「twenty4-7」解散後、現在はソロとして活動中。 | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | |
| 歌うための発声方法を様々なトレーニングから自身にあった発声を学ぶ。 ヴォイストレーニングを通して、正しい発声方の知識と技術を習得していく。 | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| ・基本フォームである、喉頭の位置・姿勢・顎の位置・腹式呼吸の理解 ・各母音の共鳴を得るための口腔内のフォームである、顎の開き・舌の位置(高さ・前後)、咽頭腔の理解 ・声区(チェストヴォイス・ミドルヴォイス・ヘッドヴォイス)の理解 ・声帯閉鎖による声区融合の達成 ・ヴィブラートの仕組みの理解と技術の習得 | | | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|-----------------|---|
| 【前期】 1～4回目 | ・ヴォイストレーニング導入/スタビライゼーション(体幹トレーニング)/基本フォーム①姿勢・顎・腹式呼吸/チェストヴォイスの確立 |
| 【前期】 5～8回目 | ・ヘッドヴォイスの発見 ファルセットとヘッドヴォイスの相違 / チェストヴォイスとヘッドヴォイスの声区移動/ミドルヴォイスの発見 |
| 【前期】 9～12回目 | ・ヘッドヴォイスの開発/ヘッドヴォイスの強化からミドルヴォイスの発見 / ヴィブラートの仕組みとトレーニング/チェストヴォイスとヘッドヴォイス |
| 【前期】 13～16回目 | ・声区融合と各母音の相違の理解 / ヴィブラート練習 / 各母音の練習(音程の変化と波のスピードアップ)/総合的反复練習 |
| 【前期】 17～19回目 | ■前期試験:前期総復習 |
| 【後期】 20～23回目 | ・ヘッドヴォイス～ミドルヴォイスの復習/ヴィブラートの復習/喚声点(男性E4/F4、女性B \flat 4/B4)の克服 / ヴィブラート練習 |
| 【後期】 24～27回目 | 喚声点(男性E4/F4、女性B \flat 4/B4)の克服 / 広い母音(ア・オ)を中心とした練習 / ヴィブラート練習/狭い母音(イ・エ・ウ)を中心とした練習 |
| 【後期】 28～31回目 | 総合的反复練習 / 課題曲を使用した母音トレーニング～広い母音(ア・オ)を中心とした練習1～3 |
| 【後期】 32～35回目 | ・総合的反复練習 / ヴィブラート練習/狭い母音(イ・エ・ウ)を中心とした練習1～3 |
| 【後期】 36～37回目 | ■後期試験:後期総復習 |
| 評価方法 | 学期末に実施する試験により「平常点 / 基礎課題 / 実技 / 資料作成」の到達度を評価する。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格) |
| 学生へのメッセージ | チェストヴォイス(地声)には限界があります。高くなれば声が裏返りやすくなります。個人差がありますが、洋楽・邦楽・過去・現在を問わず、裏返るポイントには似ており、多くの人の裏返りやすくなる場所は男性の場合、E(ミ)かF(ファ)、女性の場合かB \flat (シ \flat)かB(シ)となっています。それ以上の音は、PULLしている場合が多いのです。 この地声の限界のことを「ブレイクポイント(換声点)」といいます。 それでは、実際にプロの歌手の皆さんはどのようにして高い声を出しているのでしょうか?実はプロの皆さんは、チェストヴォイスだけに頼らずに「ミドルヴォイス」や「ヘッドヴォイス」を駆使しています。「ミドルヴォイス」と「ヘッドヴォイス」はファルセットとは違い、芯があり「チェストヴォイス」の様に力強く聴こえます。この授業を通して、正しい発声方を獲得し、アーティストへと成長していきます。 |
| 使用教科書 | 別紙譜面を配布 |

専門学校ESPエンタテインメント大阪

| 授業科目名 | ヘアメイク実習 | | 授業形態 / 必選 | 実習 | 選択(必) |
|--------------|--|-------|-------------|-------|-------|
| | | | 年次 | 1年次 | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 2単位 |
| 科目設置学科コース | ■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/> | | | | |
| 担当講師 実務経歴 | メイクセラピー「shin.shin」の経営をしてい傍ら、「一般社団法人日本アピランスセラピー協会」の代表理事を勤める。甲南大学でも講演を行っている。営業や就職に向けたメイク講座の実施経験を多く持つ。実務経験17年。 | | | | |

授業概要

- ・メイクやヘアアレンジの基本を学び自分の考察に基づいたアイデアを形にしていく。
- ・自己プロデュース力を高め、自信をつける
- ・流行のメイク方法を取りいれステージに立つことを意識した見せ方を学ぶ

到達目標

- ・メイクのベースが出来るようになる
- ・メイク道具の使い方がわかるようになる
- ・ヘアアレンジの基礎を理解できる
- ・人にすることにより、自分に対しても出来るようになる

授業計画・内容

| 【前期】 1～4回目 | メイク基礎 ベースメイク→ポイントメイク/メイク品の紹介/ベースメイク1 / ベースからファンデーションの順序を理解する |
|-----------------|--|
| 【前期】 5～8回目 | ベースメイク2 コントロールカラー、コンシーラーの役目 / ファンデーションのタイプ / ベースメイク実習 / ポイントメイク アイメイクの順序を理解する |
| 【前期】 9～12回目 | ポイントメイク2 アイカラーの塗り方、アイライン / ビューラーの使い方、マスカラの塗り方 / ポイントメイク1, 2実習 / アイブロウのタイプ、ソップカラーの塗り方を覚える |
| 【前期】 13～16回目 | ポイントメイク1～3実習 / フィニッシュメイク チークカラー、ハイライト、ローライトの入れ方/トータルメイク実習(自身) / トータルメイク実習(ペア)1 |
| 【前期】 17～19回目 | ■前期試験:前期総復習 |
| 【後期】 20～23回目 | ヘアアレンジ実習1 髪のとかしかた→ブロー / 三つ編み裏編みの構造 / ヘアアレンジ実習2 三つ編み、裏編み、フィッシュボーン / ビンの留め方 |
| 【後期】 24～27回目 | ヘアアレンジ実習3 ホットカーラー / 今まで学んだことを使ってヘアアレンジを完成1～2/ ヘアアレンジ作品制作(ペア)1 |
| 【後期】 28～31回目 | ヘアアレンジ作品制作(ペア)2 / テーマ別ヘアアレンジ作品制作1 / ポニーテール、ツインテール等、結び方を学び / テーマ別ヘアアレンジ作品制作2 |
| 【後期】 32～35回目 | ヘアアレンジ演習(ペア)1 / ヘアアレンジ演習(ペア)2 / イベント用ヘアアレンジ制作1～2 |
| 【後期】 36～37回目 | ■後期試験:後期総復習 |
| 評価方法 | 学期末に実施する試験により「平常点 / 基礎課題 / 実技 / 資料作成」の到達度を評価する。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格) |
| 学生へのメッセージ | 人前に入る仕事を目指す上で見栄えは重要です。メイクやヘアセットなど最低限のやり方を知り、アレンジしていくことで個性を出せるようになります。男性女性に関わらず、人前に入る際の身だしなみと共に、ヘアセット、メイクの仕方の基本をしっかりとおさえておきましょう。 |
| 使用教科書 | |

専門学校ESPエンタテインメント大阪

| 授業科目名 | 一般教養 | | 授業形態 / 必選 | 講義 | 必修 |
|---|---|-------|-------------|-------|-----|
| | | | 年次 | 1年次 | |
| 授業時間 | 90分(1単位時間45分) | 年間授業数 | 37回(74単位時間) | 年間単位数 | 4単位 |
| 科目設置学科コース | ■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース/ダンスパフォーマンスコース | | | | |
| 授業科目要件 | 実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 <input checked="" type="checkbox"/> | | | | |
| 担当講師 実務経歴 | | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「卒業後の仕事、社会人としての自分」をイメージして業務をこなすための力や物事を考える力を学んでいきます。 ・社会人としての「一般常識」「マナー」「コミュニケーション力」を身につける。 | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・履歴書の書き方の基本を理解し、「自己PR」「志望動機」をまとめる力を身につけ、就職活動に対して備えることができる。 ・基礎的なビジネス文書の作成能力とコミュニケーション力を養い、就職後の職場での適応力を高めることができる。 ・自身のキャリア設計を行い、将来的なビジョンを持つことができる。 | | | | | |

| 授業計画・内容 | |
|-----------------|---|
| 【前期】 1～4回目 | 新入生ガイダンス/イベント初心者研修/ビジネス文書 オリエンテーション～表現技能1 |
| 【前期】 5～8回目 | ビジネス文書 表現技能 2～5 |
| 【前期】 9～12回目 | ビジネス文書 表現技能 6,7～実務技能 1,2 |
| 【前期】 13～16回目 | キャリアプランニング 1～4 |
| 【前期】 17～19回目 | 【前期試験】前期総復習 |
| 【後期】 20～23回目 | 『Job Discovery』ガイダンス～キャリアプランニング 3,4 |
| 【後期】 24～27回目 | コミュニケーション理論 1,2～コミュニケーション実践 1,2 |
| 【後期】 28～31回目 | コミュニケーション実践 3～6 |
| 【後期】 32～35回目 | キャリアプランニング 5～8 |
| 【後期】 36～37回目 | 【後期試験】後期総復習 |
| 評価方法 | 学期末に実施する試験により「平常点 / 基礎課題 / 実技 / 資料作成」の到達度を評価する。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」(S～C=合格、D～F=不合格) |
| 学生へのメッセージ | 社会人として必要な、基礎的なビジネス文書の作成能力やコミュニケーション能力を高めていく授業となります。 また、自身のキャリアプランの作成に取り組み、自身の未来の構築について考えていきます。 アーティストとしてだけでなく、音楽業界に求められる人材として自己アピールできる力を培います。 |
| 使用教科書 | ビジネス文書検定3級受験ガイド 毎回ドリル形式のプリントあり |